

# TOBU TIME

vol.16

2016.8  
秋号

[特集]

# 周術期支援センター オープン!

LEADERS

リーダーたちが語る東部病院の医療

[vol.8] 若い医師たちを惹きつける魅力のある職場が  
よい医療を提供する病院を創る

副院長・消化器センター長・医療連携センター長 長島 敦

知ってトクする!  
東部病院スタッフの知恵袋

臨床検査技師が教えます!

採血・採尿検査  
ココが知りたい!

>> あなたのまちのホームドクター

さなだ医院

鶴見中央クリニック

小出内科胃腸科

稲森医院



ご自由  
にお持ちください

TAKE FREE

イラスト：こしのりょう



社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市東部病院

# 東部病院 information

東部病院の催事・イベント・  
市民公開講座・講演会などの  
活動報告と今後の予定

5

2016  
月 May

## 5/8 看護フェスティバル開催 1

イベント

看護週間にちなんで中高生を対象とした「看護フェスティバル」を開催しました。1日ナース体験とばかりに、脈拍・血圧測定、沐浴、妊婦さん体験や車いす介助、BLS（救命処置）など盛りだくさんのプログラムでしたが、元気いっぱい最後まで集中し、夢中になって臨んでくれた学生さんたち。来年も同時期開催予定です。

6

月 June

## 6/28 サルビアフェスティバル開催 2

イベント

重症心身障害児（者）施設「サルビア」で毎年恒例のサルビアフェスティバルを開催。その名も略してサルフェス。『宇宙』をテーマに趣向を凝らした空間を、利用者さんご家族の方がゲームをしながら旅をします。宇宙旅行、楽しんでいただけたかな？



7

月 July

## 7/16 市民公開講座

イベント

### 「こどもの便秘 ～夏に向けて気を付けること～」 3

知っているようで知らないお子さんの便秘について、小児肝臓消化器科の十河剛副部長らが科学的根拠に基づく正しい知識と対処法を伝授。会場にはそうした症状に悩む保護者の方や教育関係者の方など、熱心に耳を傾けていました。



8

月 August

## 8/1 周術期支援センターオープン

お知らせ

患者さんに安心して手術を受けていただき、より質の高い医療を提供しようと、8月1日、「周術期支援センター」がオープンしました。センター長の谷口医師とスタッフの池田看護師、牛込管理栄養士が、センターの開設に寄せる思いを語った今号の特集記事も是非ご覧ください。



## 8/7 ブラックジャックセミナー&オペナースセミナー 4

イベント

縫合器や超音波・電気メス操作、機械出しなどを当院の手術室で実際に体験出来る「オペナースセミナー」と、中高生を対象とした「ブラックジャックセミナー」を開催しました。現場で活躍中の看護師や医師によるわかりやすいレクチャーに、参加者の方は真剣に耳を傾けていました。

cover illustration by こしのりょう先生



今号の表紙は「LEADERS」に登場の長島副院長とその仲間たちをモチーフに描きました。



こしのりょう

1967年9月生まれ新潟県三条市出身。2004年4月、「モーニング」（講談社）で『Ns あおい』にてデビュー。2011年から、「週刊現代」（講談社）で『町医者ジャンボ』を連載中。破天荒な医師・「ジャンボ」が、地域医療の現場で奮闘する姿を描いている。同作は、2013年7月にテレビドラマ化された。

「Dr. アシュラ」第3巻は8月29日発売！救命女医、吉野修羅の前に末期ガン患者が運び込まれ言う「もう助けなくていい!!」……さあ、どうする!?



「HANA♪うた」（日本看護連盟 機関誌「∞ [アンフィニ]」にて連載中）ネットでも見られます。「こしのりょう note (<https://note.mu/ryokoshino>)」



# 今後の予定

## 9

### 月 September

9/5  
9/12

セミナー

#### 緩和ケア教室

～がんになったとき、こころの苦痛を和らげる治療があります～

第1部 「緩和ケアについて」(医師) / 「がんの痛みとうまく付き合うために」(薬剤師)  
「がんリハビリテーション」(理学療法士・作業療法士)

第2部 「緩和ケアと療養」(看護師) / 「がん療養における心のケア」(臨床心理士) / 「がんと栄養」(管理栄養士)

日時 第1部 9月5日(月) / 第2部 9月12日(月) 両日とも14:00から1時間程度

会場 当院3階多目的ホール

主催 東部病院 緩和ケアチーム

参加費無料

申込み不要

当日直接会場へ

9/10

市民公開講座

#### 市民公開講座

「がん緩和ケア講座

～今から未来への自分にこれからの過ごし方～ 身近な緩和ケア」

日時 9月10日(土) 10:00～12:00 (9:30 開場)

会場 当院3階多目的ホール

がんによる身体的な痛みや、精神的なつらさを和らげるための「緩和ケア」について知ってほしい。講師を務めるのは緩和ケア病棟を持つ平和病院、在宅看護を行う鶴見メディカル第2訪問看護ステーション、そして当院の3施設から3人の緩和ケア認定看護師です。「がん」を知る看護師の話をぜひ聴きにいらしてください。

参加費無料

申込み不要

当日直接会場へ

9/14

がんサロン

#### 第21回 がん患者家族サロン『さんぼ道』

日時 9月14日(水) 14:30～16:00 (14:00 開場)

会場 当院3階多目的ホール(小)

スケジュール

##### 1. ミニ講話(20分程度)

抗がん剤使用による皮膚障害・爪のケア  
当院 皮膚排泄ケア認定看護師 及川亜紀子

##### 2. 茶話会

がん患者さんやご家族同士が自らの体験を語りあったり、  
情報交換をしながら、交流できる場です。  
お茶とお菓子を用意してお待ちしています。

申し込み方法：事前申し込みまたは当日参加も可能です。

お申込み・お問い合わせ：当院がん相談支援室 TEL045-576-3000(代)

参加対象はがん患者さんとご家族です

(当院かかりつけでなくても構いません)

途中出入りは自由です。お気軽にお越しください

参加費無料

当日直接会場へ

## 11

### 月 November

11/13

市民公開講座

#### 市民公開講座

新たな定期接種ワクチンスタート! 「B型肝炎ワクチンってなあに?」

日時 11月13日(日) 13:00～15:00

会場 崎陽軒本店会議室

講演1 「新たに始まる定期接種のワクチン・最新情報」

講師：岡部信彦(小児科医：川崎市健康安全研究所 所長)

講演2 「行政における予防接種推進の考え方」

講師：緑川 喜久代(三育学院大学講師・元千葉県長南町保健師)

講演3 「子どもとB型肝炎(仮)」

講師：藤澤知雄(小児科医・NPO法人小児肝臓研究所理事長)

太田文夫(小児科医・おおた小児科循環器科院長・千葉市)

演題4 保護者・患者の立場から「患者として、母として伝えたいこと」

講師：石川冬美

総合司会 高畑紀一(一般社団法人Plus Action for Children代表理事)

開会挨拶 菌部友良(小児科医・NPO法人VPDを知って子どもを守ろうの会 理事長)

共催団体 NPO法人VPDを知って、子どもを守ろうの会、一般社団法人PlusActionforChildren、  
予防接種を推進する会・ちば、神奈川県予防接種推進協議会、彩の国予防接種推進協議会

後援団体 済生会横浜市東部病院、神奈川県、横浜市、川崎市、神奈川県医師会、神奈川県小児科医会、  
横浜市医師会、川崎市医師会、川崎市小児科医会、日本外来小児科学会、横浜市小児科医会



参加費無料

申込み不要

当日直接会場へ

# LEADERS

リーダーたちが語る東部病院の医療

東部病院を牽引するリーダーたちの姿・人柄・取り組みに迫ります。

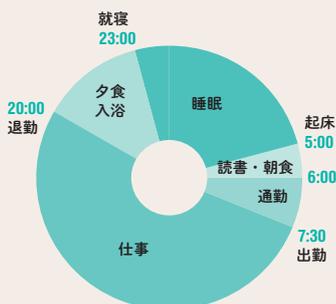
若い医師たちが  
生き生きと仕事をしていたら、  
そこはきつといい病院なんだ。



vol.8

副院長  
消化器センター長  
医療連携センター長  
**長島敦**

## [ LEADER'S SCHEDULE ]



忙しいからこそ「読書の時間」をあえて作って本を読む。ビジネス書から思想、小説などジャンルは様々。「この歳になると教えてくれるのは本だけ」という。



若手医師たちと病棟で。日々“現場”を大切にしている。

## 厳しかった恩師の下 外科医としての基礎を学ぶ

転勤族だった父に連れられて全国を転々とした小・中学校時代。部活のラグビーに打ち込んだ高校時代。

「その頃思い描いていた将来の進路は、医者か商社マン。医者の道を選んだのは、医学部に行けば長く学生をやっていられるから。長く遊べるから」。

飄々と語る。その言葉通り、大学でもラグビーを続け、充実した6年間で送った。だから、「卒業するときは、仕事を始めるのが嫌で仕方なかった」。

そんな長島を医師として目覚めさせたのは、研修医2年目に浜松赤十字病院で長島を指導した恩師深見との出会いだ。「極めつけの厳しい上司」だった。

「24時間完全に管理されて、手術になるともう怒られまくる。本当に辛い1年を過ごしたけれど、それが今の僕にとって非常に大きな財産になっていると思う」。外科医としての基礎の基礎を教えてもらい、患者さんを診る上でのかえ方を学ばせてもらったという。

## 神奈川県病院から東部病院へ 他に先駆けた数々の取り組み

大病院での3年間の研究生活をを経て、長島は済生会神奈川県病院に就職する。当時の仕事を尋ねると、「楽しかったですね。上司たちが皆下を育てようという意識があつて、どん

どん手術をやらせて一生懸命教えてくれた。それは病院のいい伝統であり、うちの外科の文化でもあると思う」。

2007年、長島は神奈川県病院から引き続き東部病院の開院に伴って、外科部長に就任した。神奈川県病院では救急医療はすべて外科が担当していたが、東部病院では外科と救急科に分かれた。それでも県病院以来の伝統を引き継ぎ、外科と救急科は1つのユニットとして共同で診療を行っている。

「そこに魅力を感じて多くの若い外科医が集まる」と長島は言う。両病院は強く連携しているが、初期にその橋渡しをしたのも長島だった。

このほかにも、病院と診療所の連携、患者さんの在院日数の短縮など、長島が先陣を切って進めてきた取り組みは多い。外科領域では、傷をきれいにする「真皮縫合」など、先進的な技術を積極的に導入してきた。

## ひとりの医師として、 後輩たちに託したいもの

医師としての経験を積み、後輩たちを率いる立場となつて、医療をよりよくするために何が大切か考えたとき、長島が出した答えは「チームになること」だった。

「スタッフ全員が考え方のベクトルを合わせて、お互いを信頼し合い、尊重し合う。そのためには、目指す医療はどのようなものか、我々のミッション



消化器外科のスタッフたちと。長島の周りには笑いが絶えない。

は何かをみんなに説明して共感を得てもらわなくてはいけない。今、外科と救急はいいチームになつて、いい成果を出せていると僕は思っています」。

長島率いる外科は、企業と共催する「ブラック・ジャック・セミナー」にも積極的だ。中学生に医師の仕事を紹介する講座で、そこでは若いレジデント（研修医）が前面に出ることで好評を得ている。「レジデントが多くて、みんな生き生きと楽しんで仕事をしてくれることが我々の一番の自慢です」。

「今は外科医を天職だと思つている」と言い切る長島。そんな彼が後輩に託したいことは、「目の前の病気で困っている人々を幸せな気持ちにするにはどうしたらよいかを考えて医療をやりなさいということ。時間をかけて考えていれば、きっとそうできるようになる」。

## ビジョンの実現に向けて 新たな挑戦の始まり

現在長島は神奈川県病院の院長代行を務めている。

「今まで県病院は慢性期医療と回復期リハビリテーションが中心でしたが、今後はこれに加えて特化した急性期医療をやっていくつもりです。また、近隣のクリニックと連携して、急患の受け入れや在宅患者さんの急変対応など、地域のニーズに応えられる救急医療をやりたいと思っています」。

医師としての能力だけでなく、経営者としてのセンスも求められる困難な仕事だ。乗り越えるべき課題は多いが、これからもきつと長島の挑戦は続く。

### 長島 敦

Atsushi Nagashima

済生会横浜市東部病院  
副院長・消化器センター長・  
医療連携センター長

1985年浜松医科大学卒業。同年慶應義塾大学外科学教室入局。1991年済生会神奈川県病院外科に勤務。のちに外科部長。2007年東部病院開院と同時に同院外科部長就任。2012年より副院長および医療連携センター長兼務。2016年4月より済生会神奈川県病院院長代行兼務。



# 周術期支援センター オープン!

患者さんに安心・安全・  
快適な手術を提供したい

東部病院では多くの患者さんが手術を受けます。手術が決まってから退院するまでには、主治医や麻酔科医を始め、看護師や管理栄養士、薬剤師など多職種の医療スタッフが力を尽くし、患者さんを支えています。それでも、手術に臨む患者さんは様々な不安を抱えていることでしょう。そんな患者さんに安心して手術を受けていただき、より質の高い医療を提供しようと、8月1日、「周術期支援センター」がオープンしました。センター長の谷口医師とスタッフの池田看護師、牛込管理栄養士が、センターの開設に寄せる思いを語ります。

周術期支援センターは、  
通称TOPS(トップス)と  
覚えてくださいね!

谷口英喜

Hideki Taniguchi  
周術期支援センター長  
栄養部部長

TOPS  
TOBU HOSPITAL  
PERIOPERATIVE SUPPORT CENTER

周術期支援センター  
Tobu Hospital Perioperative Support Center

手術を受ける  
患者さんは  
不安がいっぱい

谷口 「周術期」とは具体的には手術が決まってから入院するまでの間、入院してから手術するまでの間、手術中、それから退院するまでの間です。やはり手術を受けるときは皆さん、いろいろなことがわからなくて不安に思っているんじゃないかな。そして実際に手術を受けて辛い思いをしても、あまりそのことをおっしゃらない。日本人の民族性で、我慢をされているんですね。でもよく聞いてみると、手術前にもっといろいろなことがわかっていたらよかった、辛さとか痛さとか、治療の内容などがわかっていたら安心できたという声がたくさんあるわけです。

池田 そうですね。手術が決まって、外來で説明を受けて同意書などを渡されて、次に来るときはもう入院だと、手術前の期間をどう過ごしていいかわからない患者さんはたくさんいます。

谷口 私は手術室で患者さんに麻酔をかけてきた側ですが、その患者さんに対し、入院前にどれぐらいのレベルで説明がなされているかわからなかった。実際は、これぐらいのことは説明を受けているだろうと思っていたことが伝わっていないことも多かったんです。そういう意味で、患者さんと医療者の間で情報が十分に共有できていなかったし、医療者の間での情報共有もあまりできていなかった。ですからその部分を周知徹底することで、治療を円

滑に進めよう、手術に不安なく臨んで  
快適に治療を受けていただこうという  
のが、センター開設に至った理由です。

### 患者さんと医療者が 情報共有することで 生まれるメリット

**牛込** これまでは外来で手術の流れを  
説明していましたが、どうしても具体  
性に欠けるところが出てきてしまいま  
す。かといって、入院してからの患者  
さんはすごく忙しくて、通常は手術ま  
で丸1日ないくらいですから、そこで  
全部を説明して患者さんに理解してい  
ただくのは難しい。

**池田** それを解消するのが、当セン  
ターの「手術準備外来」ですね。手術を  
控えている患者さんには2週間前くら  
いに予約を入れていただき、そこで各  
専門職が情報収集や説明をして、安心  
して手術が受けられるように準備を整  
えて帰っていただくことになりました。

**谷口** 手術にかかわるスタッフ全員と  
直接話せるので、患者さんの疑問、不  
安もその場で聞いてもらうということ  
ですね。そんな中で食べるという面では  
栄養士さんの存在はとても重要で  
すね。

**牛込** 手術前の患者さんはいつまでお  
食事ができるのか、手術後はいつから  
どういうものが食べられるのかといっ  
た不安がすごくあります。食べる、飲  
むということは、その人の生活の一部  
ですから、その部分が奪われてしま  
うことは非常に苦痛なんです。ですから  
栄養士が術前から患者さんにかかわる

### 池田典子

Noriko Ikeda  
外来フロア  
看護師長

### 牛込恵子

Keiko Ushigome  
周術期支援センター所属  
管理栄養士

ことで、不安がなくなればいいなと  
思っています。

**池田** 手術に備えて患者さんが薬を一  
時的に中断しなくてはいけないときな  
ども、外来で看護師が説明しているの  
ですが、すごく神経を使うところで。そ  
れを薬剤師に前面に出てもらって、お  
薬のことを患者さんに十分に説明して  
もらえば、私たちも安心できますね。  
**谷口** そういう情報を集約するのがセ  
ンターの役割の1つですね。さらには  
リスクの管理が手術前にはすごく大切  
で、入院前にそれぞれの専門職がリス  
クを抽出できることが、このセンター  
のメリットでもあると思います。

**池田** そうですね。アレルギーのリス  
クなどもビックアップしやすくなりま  
すね。

**牛込** 低栄養や栄養不良の方は術後の  
予後が悪いので、そういうことを見つ  
けて、先に治療ができて、術後早く回  
復していただけるのが一番いいの  
かなって。

**谷口** 栄養状態や血糖コントロールが  
悪い方は、合併症のリスクも高いんで  
すね。創部感染といって手術の傷口に  
感染して膿んだり、縫合不全といって  
縫い合わせた腸管どおしが離れてしま  
う合併症を起こしやすい。肺炎も術後  
に起こりやすい合併症ですが、手術前  
からたばこを吸っている方はさらにな  
りやすくなります。それに対し、手術  
前から栄養的な介入をしたり、生活指  
導をしたりすることで、合併症を防げ  
る可能性があるわけです。そういった  
リスク管理が十分にできることも重要  
な役割です。

## 早期退院を 実現するための 様々な工夫

**牛込** 当センターでは術前の情報提供も口頭だけではわかりにくいものは、ビデオを視聴していただきます。あとは患者さんに日記を書いていただくと思っております。それによって自身の回復度を実感し、治療に対するモチベーションを上げていただけるような仕組みをいくつか考えています。

**谷口** 術後の回復促進ということ言えば、手術の後、できるだけ食べて飲んで動くことが一番回復が早いわけです。そのためにはなるべく手術の前まで飲んで、お腹の動きが保たれている方がいい。当院では術前の患者さんのどの渴きの軽減と脱水予防のためにほとんどの手術に術前経口補水療法を取り入れていますが、これは麻酔管理の安定につながります。また、術後の痛みや気持ち悪さを軽減して、できるだけ早く飲んで食べて動けるように、多職種チーム(Acute pain service: 疼痛管理チーム)で患者さんをケアしています。

**池田** 術後に順調に回復して早く退院していただけることが大事ですね。それぞれの患者さんにはその人が持っている役割がありますから、いい状態でご自宅に帰って、家庭での役割や社会的役割を継続して果たせるということがすごく大きいと思うんです。

**谷口** 今の日本社会では、早く退院するということが根付いていませんね。患者さんは病院で完全に治療するもの

と思っている方が多いのですが、ある程度ご家庭でも療養するという考え方を持っていたり、必要があると思えば、これは、超高齢化に向かって病院が多くの患者さんを受け入れるためにも大切です。

**池田** 病院での生活は単調ですが、ご自宅に帰れば活動量も上がって体力もつきますし、いいことが多いと思えますね。

**谷口** そうですね。ですから先ほど日記の話が出ましたが、ご自身でもここまで回復したから早くお家に帰りたいなと思っていただけのような環境づくりができればいいな思っているんです。それから、退院後にご自宅で療養されるにしても、回復期の病院など他の医療機関に移っていただくにしても、連携をうまくやっていく必要があります。理想は入院時点で退院後のことが決まっていると患者さんにとっても病院にとってもいいのですが、これは今後の課題といえます。

## 主役は患者さん それを支えるのが センターの役割

**谷口** 当センターは、まず消化器外科の手術を受ける患者さんを対象にし、将来的には東部病院で手術を受けられる全患者さんに対象を広げる予定です。東部病院では、既に理想的な周術期管理が実施されている科もありますので、全ての患者さんがこのような管理を受けられるようにしたいと考えています。それには実情に合わせて徐々にシステ

ムを変えていく必要はあると思えますが、このセンターをうまく使っていくことによって周術期管理の質、レベルがさらに上がることを期待したいです。

**池田** 病院の中でも周術期支援センターができてよかった、いい効果が出ているよねって職員全体にも思ってもらえればうれしいです。

**牛込** 栄養士としては今まで術前からあまり患者さんにかかわれていなかったの、そこから一歩進みだすということが重要なと思います。

**池田** まさに患者さんが中心にいて、そのまわりにいろいろな職種や部署の人がいる感じで、いいかわかりができて思うんです。

**谷口** やっぱり治療は結局は患者さんが主役で、患者さんががんばってくれないとうまくいかない。患者さんは病院にお任せという感じになりがちですが、そうではなくて、一緒に治療していくという気持ちになってもらいたいなと思うんです。患者さんの治療意欲、退院意欲を喚起して、それを医療従事者が支援するようなセンターを目指していると思います。



### ↑ TOPS日記

手術準備外来で患者さんに渡される「私のかいふく日記」(通称TOPS日記)。患者さん自身が手術後の心の状態、身体状況、食事の状態などを記録し、回復度を振り返る。医療スタッフが患者さんの状態を把握するためのコミュニケーションツールでもある。

患者さんが中心にいて、それを私たち医療者が支えていくイメージですね。



### 東部病院の周術期支援センター(TOPS)

Tobu Hospital Perioperative Support Center

主に薬剤師・看護師・医師・管理栄養士・  
歯科医師・歯科衛生士で構成



これが東部病院の…

# 手術前・手術当日・手術後

入院って？ 手術って？  
いったいどうすればいいんだろう……

## 手術前



大丈夫ですよ！私たち「手術準備外来」では、患者さんが適切な手術準備を行えるように情報収集や情報提供を行います。手術にかかわる全職種のスタッフと会って話すことができますので、わからないことや不安なことがあれば、何でも質問してくださいね。

手術前に私たちが  
患者さんに支援できること

- 質問事項・情報提供
- 診察（問診、身体計測）
- オリエンテーション
- ビデオ学習
- 入院生活に関する質問
- 栄養指導・介入
- 薬剤中止・服薬指導
- 禁煙指導
- 口腔管理指導
- 手術、麻酔に対する質問 など

手術直前はどうすればいいの？

## 手術当日



手術当日に私たちが  
患者さんに支援できること

- 主治医による診察、説明
- 手術前に経口補水療法

手術前日より「術前経口補水療法チーム」がサポートのもと、手術前に経口補水液を患者さんに飲んでいただき、のどの渇きや脱水を防ぎます。手術当日は、歩いて手術室に入室いたします。

手術後に私たちが  
患者さんに支援できること

- 痛みや吐き気の軽減
- 「飲む、食べる、動く」の促進
- かいふく日記の記載

手術後って何をしてくれるの？

## 手術後



安心して  
帰宅へ



手術後は、痛みや気持ち悪さを軽減するためのサポートを行い、早期回復をめざします。医師、薬剤師、看護師を中心とした「術後疼痛管理チーム」がサポートするので安心してください！

今さら聞けない!? 知らなかった! と思うようなネタを  
東部病院のスタッフに直撃取材。  
専門のお仕事だから知っている、  
あなたの生活に役立つ知恵を伝授!

知ってトクする!

東部病院  
スタッフの

知恵袋

臨床検査技師 が教えます!

## 採血・採尿検査 ココが知りたい!

最新のコンピューターシステムの導入やスタッフの徹底したトレーニングにより、  
受付から結果報告までわずか30分というスピーディーな検査を実現している東部病院臨床検査部。  
そんな臨床検査部がお伝えする今回の知恵袋は、採尿・採血についてです。

知っ得!

正しい知識を身につけて、正しい検査結果を!

検査の達人が教える、正しい検査結果を得るための  
「採血&採尿 4つの心得」



### 一、安静にするべし

検査前に激しい運動をすると筋肉中の酵素が血中に漏れ出して、一部の酵素(CK、AST、LDH)の検査値が高くなってしまいます。もし激しい運動を行った場合は、そのことを医師に伝えるとよいでしょう。

### 二、食事は控えるべし

食後しばらくは血糖値や中性脂肪値が上がってしまうため、検査前は食事を控えるのが基本とされています。また、サプリメントや栄養剤の成分も尿や血液検査の分析を邪魔してしまうことがあるので、たくさん利用している人は念のため医師に申告することをオススメします。

### 三、採血前に血管を ほどよく温めるべし

前もってカイロなどを腕に当てて温めると、血管が浮き出て採血しやすくなるといわれています。叩いたりゴムで強く締めすぎたりすると、血液の成分が変わって検査値に影響することがあるのでやめましょう。

### 四、採尿は中間尿を採るべし

採尿は最初からコップに採らず、少し出してから中間の尿を採りましょう。これは、出始めの尿は尿道を通ってくる間に雑菌が混ざってしまい、安定した結果を得られないからなんです。

検査について  
わからないことがあれば  
お声がけください。

Q. 痛いのは、

何とかありませんか?

採血では一瞬クッとするのはご容赦を! 針が皮下の痛点的近くに当たると痛みを強く感じるのですが、これはいわば運次第。変に力を入れたり逃げたりするのは危険ですから、力を抜いてリラックスしてくださいね。

※ただし、しびれを感じたり、気分が悪くなったらすぐに伝えましょう。



臨床検査部

係長  
中條政直  
Masanao Chujoh

副部長  
横山一紀  
Kazunori Yokoyama

Q. 貧血だけど、

採血しても大丈夫?

採血に使う採血管1本は2~3ml。検査項目が多いと本数が増えますが、数本採ったとしても10数ml程度なので、体内の血液量(成人で3~4ℓ:体重の約1/13)と比べたら微々たるもの。貧血の方でも全く心配ありませんからご安心ください。

# あなたのまちのホームドクター

このコーナーでは、東部病院と連携している地域の医療機関をご紹介します。  
東部病院では、みなさまのかかりつけ医と協力し地域の医療を守っています。

## さなだ医院

JR 鶴見駅より徒歩 1 分

内科 小児科アレルギー科 皮膚泌尿器科 外科

院長／眞田 喬子(さなだ たかこ)  
住所／〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央4-2-3  
電話／045-501-1117  
診療時間／月火水木金9:00～12:00 / 14:00～18:00  
土9:00～12:00  
休診日／土午後・日祝  
受診方法 完全予約制 予約制あり 予約制なし

	月	火	水	木	金	土	日
午前	●	●	●	●	●	●	×
午後	●	▲*1	●	△*2	●	×	×

\*1: 皮膚泌尿器科・外科は休診 \*2: 内科・小児科アレルギー科・皮膚泌尿器科は休診



眞田病院を鶴見の地に開設して  
から100年余。「さなだ医院」とし  
て再出発してから約10年が経ち  
ます。各種予防接種やアレルギー  
疾患、健康診断等、皆様の健康  
維持に貢献したいと考え内科・  
小児科・アレルギー科、乳腺科、  
外科胃腸科、循環器科など各ジャン  
ルの専門医がスタンバイしてお  
ります。

## 鶴見中央クリニック

JR 鶴見駅より徒歩 5 分

内科 消化器科 小児科 リハビリテーション科

院長／西村 正人(にしむら まさと)  
住所／〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央3-1-27  
電話／045-506-5554  
診療時間／月火水金9:00～13:00 / 15:00～19:00  
休診日／木土午後・日祝  
受診方法 完全予約制 予約制あり 予約制なし

	月	火	水	木	金	土	日
午前	●	●	●	●	●	●	×
午後	●	●	●	×	●	×	×



「病気を治すこと」とどまらず「生  
涯の健康維持」のためのお手伝い  
として、わかりやすい指導と暖かい  
医療を提供する事を第一に努め  
ています。前立腺ガン・大腸ガン  
検診、CTスキャン検査、超音波  
エコー等をお受けしています。お  
仕事帰りにも受診していただける  
よう18:45まで受付しております。

## 小出内科胃腸科

京浜急行線 花月園前駅より徒歩 3 分

内科 消化器内科

院長／小出 浩平(こいで こうへい)  
住所／〒230-0063 横浜市鶴見区鶴見1-11-17 ベルシャム TOK1F  
電話／045-584-8733  
診療時間／月火金9:00～13:00 / 15:00～19:00  
土日9:00～13:00  
休診日／木・水土日午後・祝  
受診方法 完全予約制 予約制あり 予約制なし

	月	火	水	木	金	土	日
午前	●	●	△*	×	●	●	●
午後	●	●	×	×	●	×	×

\*内視鏡検査のみ



胃・大腸内視鏡検査、腹部エコー  
検査、胸・腹部X線写真、心電図、  
視力・聴力・健康診断などの諸  
検査を、患者様のご都合に合わせ  
て平日午後や土日などの休日に施  
行し、平日は午後7時まで診療し  
ております。また、消化器・内視  
鏡医として「痛くない」と患者様か  
らのご好評をいただいております。

## 稲森医院

JR 鶴見小野駅から徒歩 11 分

内科 小児科

院長／稲森 一宏(いなもり かずひろ)  
住所／〒230-0042 横浜市鶴見区仲通1-58-7  
電話／045-501-3537  
診療時間／月火水金9:00～12:00 / 15:00～18:00  
土日9:00～12:00  
休診日／水・土日午後・祝  
受診方法 完全予約制 予約制あり 予約制なし

	月	火	水	木	金	土	日
午前	●	●	×	●	●	●	●
午後	●	●	×	●	●	×	×



潮田地区のホームドクターとして開  
業して45年。小さいお子さんから  
ご高齢の方までをよく診させてい  
だくため、お孫さんとご一緒にお越  
しになる方もいらっしゃいます。少  
しでも気になる症状がありましたら、  
まずは受診して下さい。長年  
の経験を活かして然るべき医療機  
関へつなぐのも当方の役目と心得  
ております。

## 当院看護師が鶴見消防署より表彰されました

### JR 鶴見駅で人命救助

急病で倒れた男性の救命に尽力したとして、当院看護師の佐々木祐里恵さんに、7月14日、鶴見消防署（齋藤俊彦署長）から感謝状が贈られました。救命事案が起きたのは5月24日。佐々木看護師は先に救命活動を行っていた数人と協力し、AEDの装着や、到着した救急隊への状況説明などに奔走。その結果男性は救急車内で心拍が再開、その後当院へ入院し無事に社会復帰されました。「私は途中から。最初に心臓マッサージをした人のおかげ。早い対応が良かった」と、また、「元気になったご本人の姿を見られて嬉しかった」と語る佐々木看護師でした。

前列中央が佐々木看護師



## PICK UP

### 再診時選定療養費についてのお知らせ

平成28年8月1日より、再診時の選定療養費として2,700円をご負担頂きます。

#### 再診時の選定療養費とは

病院と診療所の機能分担の推進を図る観点から、厚生労働省により定められた制度です。当院から他の医療機関へ紹介や提案をしたにもかかわらず、患者さんご自身の希望で再度当院を受診する場合、診療費とは別に再診時に費用の負担が発生致します。

### 皮膚科が完全紹介制となります

当院の皮膚科外来は、地域医療支援病院として、高度で専門性の高い医療をより多くの患者さんに提供していくため、平成28年8月1日より「完全紹介制」となります。紹介状をお持ちでない場合は受診できません。受診をご希望される方は、他病院からの紹介状をお持ちになり、受付時間内にお越しください。

### 泌尿器科が紹介初診予約制スタート

この度、泌尿器科では「紹介初診予約制」を導入いたしました。他医療機関から泌尿器科宛の紹介状をお持ちの患者さんは、あらかじめご希望の日時で予約を入れていただくことにより、通常受診よりも待ち時間の少ない受診が可能になります。

ご予約は、紹介状の手配を整えた上で、下記までお電話ください。

☎ 045-576-3000(代) 受付時間：平日9:00～17:00

※「泌尿器科の初診予約」であることをお申し出ください。

※ご予約なしでも、従来通り初診受付時間内に紹介状をお持ちいただければ受診できます。

## 在宅・介護の事なら何でもご相談ください「さわやか相談室」

当院では、鶴見区医師会在宅部門協力のもと在宅・介護出張相談窓口の「さわやか相談室」を開設致しました。最近の傾向として、急性期病院で治療を受けた後、そのまま在宅療養になるケースが増えてきており「急に在宅と言われても…」と不安になるご家族の方もいらっしゃいます。そんな方々をサポートするために在宅ケアのスペシャリストがお待ちしております。在宅・介護のこと、当院を受診されていない方でもどなたでも無料でご利用頂けます。お気軽にご相談ください。

ブルーの看板が目印です！

### さわやか相談室

毎週月・水・木曜日 10:00～14:00

当院 1階総合診療センター前



#### 理念

「私たちは、医療を通じて生命を守ります」安心して受けられる医療 患者さんに優しい医療 常に一歩先の医療 地域社会に貢献する医療

#### 基本方針

1. 医療の質の向上 2. 患者さんご家族の満足度の向上 3. 患者さんが参加する医療の展開 4. 高度な急性期医療および専門医療の提供  
5. 地域から選ばれる病院作り 6. 働きがいのある病院作り 7. 安定した経営の確保

**TOBUTIME**

vol.16 2016年8月20日発行

発行人：三角隆彦

発行：済生会横浜市東部病院

編集・取材協力：株式会社モンタナセブンピクチャーズ



社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市東部病院

〒230-8765 神奈川県横浜市鶴見区下末吉3-6-1  
TEL:045-576-3000(代表) FAX:045-576-3525  
http://www.tobu.saiseikai.or.jp/